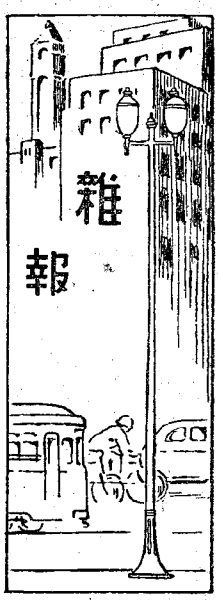


## ◎理事會

六月九日正午より丸ノ内日本倶樂部に於て理事會を開催し水野會長、橋本副會長、山田、安藤、佐上、谷口、中川（吉造）、牧、佐藤の各理事竝阿部幹事外九幹事出席し昭和十二年度事務報告、同年度會計報告、昭和十三年一般及特別會計歳入出豫算、慰勞金贈呈の件を協議した。

## ◎土木事務打合會

內務省に於て全國土木主任官會議が六月十三、十四兩日開催されたので之を好機會とし六月十三日の夜、港灣協會及道路改良會聯合して事務打合會を丸ノ內中央亭に於て開催し滯京中の土木官諸氏を招待した。水野會長初め兩會役員多數出席し晩餐を共にした。デザートコースに入るや水野會長は「今夕は各位の御上京を機とし道路改良會及港灣協會相謀りて本會合を催したる所御多用の際にも拘らず、斯く多數の御出席を得たることは深く感謝する所である。抑道路改良會は二十年前に故澁澤子爵其他の有志に依りて設立せられ爾來道路の改良擴築に努力し今日都鄙を問はず改良鋪裝が行はれて居ることとなつたが、尙未だ十分ならざるを以て一層の微力を盡す覺悟である。二十年の星霜を經過したる今日に於て其創立當時を回顧すれば實に感慨無量の感がある。故澁澤子爵の功勞を偲び將來永久に國家に貢獻せんが爲に一段の努力を盡さんことを期して居る。尙明年は本會創立二十年に相當するから委員を擧げて有益な意義ある記念事業を計畫企圖する見込である、各位におかせられても御援助を賜はり會員の加入勸誘其他本會發達の爲めに一段の功果を奏する樣此上とも御高配を希ふ次第である。又港灣協會は年々隆盛を來たし總會出席員の數より見るも其一班を知ることを得る。現に明後日の總會出席者

は少くとも千五百人に達せんとして居る。寔に欣快に堪えない次第である、港灣の事は地方地方に特種の關係があるので特別會員なども漸次增加する、道路改良會よりは五年遲く創立し漸く十五年を經過したが其資金は既に三十萬圓を超過し道路改良會よりは遙かに多額となつて居る。尙將來一層努力せんことを期して居るので益々御援助を希ふ次第である。港灣と云ひ道路と云ひ産業の發達、文化の開發上に至大の關係を有することは國民の自覺する所であるが兩會共に國運の伸暢に伴ひ更に一段の活躍を期する所である云々」との主旨を以て挨拶せられた。之に對し大阪府土木部長三輪周藏氏來賓を代表して「本夕は港灣協會及道路改良會の御懇篤なる御招待に預り深謝に堪えない次第である、我國港灣の設備、道路の改良が産業の開發、交通文化の進展を招來したるは實に兩會の功績に歸するの外なきことと信ずるものである。這般事變の勃發以來皇軍は連戰連勝實に御同慶に堪えない所で戰地に在る將兵各位に對し感謝措く能はざる次第であるが現下國力の充實を十分ならしめなければならぬ。此秋土木事業進捗の爲めに兩會に對し一段の御奮勵御努力あらんことを切望する云々」との答辭を述べ快談を交はし八時すぎ散會。

## ◎内務省土木試驗所談話會

昭和十三年六月中に開催したる土木試驗所談話會に於ける話題は次の通りである。

第一七一回技術談話會話題（昭一三―八號）

時日　昭和十三年六月十日　午後二―四時

場所　本鄉區駒込上富士前町二六

内務省土木試驗所講堂

一、鶴川橋の熔接作業に就て……（二十分）　額賀　雇

二、第二回關宿水門の流出量實測報告

……（二十分）　横田周平

三、關門海峽の潮流に就て……（三十分）　本間囑託

第一七二回技術談話會話題（昭一三―九號）

時日　昭和十三年六月二十二日（水曜）午後二―四時

場所　本鄉區駒込上富士前町二六

內務省土木試驗所講堂

一、砂防堰堤の下流洗堀に關する一水理實驗報告……(四十分)　安藝技師、横田周平

二、洪水波の傳波速度に就て…(四十分)　伊藤剛技師

## ◎第六回全國都市問題會議總會の開催

本年十月十日より三日間朝鮮京城府に於て開催さるゝが其議題は(一)都市計畫の基本問題(都市計畫の理論に關する問題、法制、地域及地區の制、財政、其の他の重要問題)(二)都市の經費問題(基本的問題、制度に關する問題、豫算編成に關する問題、經理に關する問題、其他の問題)で尙其の他事業の都市の厚生對策、日滿支都市の連携の如き重要案件に就ても討議報告あり極めて緊要且興味大なる會議である。日比谷公園東京市政調査會內全國都市問題會議事務局の主催に係る所である。

## ◎近刊圖書雜誌

**○鐵道軌道經營資料**　(第二一卷六號)

(高橋金之助氏＝石油問題と自動車交通事業)

**○警察協會雜誌**　(第四五七號)

**○土　木**　(第四二號)

(金子源一郎氏＝技術者の自覺と團結、澤二郎＝集團勞働奉仕と土木事業、池本泰兒＝氏土木工事の直營に就て)

**○法律時報**　(第一〇卷六號)

**○汎交通**　(五、六月號)

(大藏公望氏＝我國今後の交通國策に就て)

**○大阪商工會議所月報**　(第三七三號)

**○石油時報**　(六月號)

**○觀光聯盟情報**　(第二卷五號)

**○道路研究會彙報**　(四、五月號)

(道路を決定すべき都市の諸性質、滑りと照明から見た鋪裝、土道の安定工法)

**○電氣通信學會雜誌**　(第一八二號、第一八三號)

**○港　灣**　(第一六卷一六號)

**○工事の友**　(第一〇輯三號)

**○水利と土木**　(第一一卷六號)

○駿　工（第一四卷六號）
○土木學會誌（第二六卷六號）
○セメント界彙報（第三六三號）
○都市問題（第二六卷六號）
○技術日本（第一八五號）
○自　警（六月號）
○清　和（第五卷六號）
○科學知識（六、七月號）

○道路研究會彙報（六月號）
（東京の道路を談る、土道の安定工法）
○三田學會雜誌（第三十二卷六號）
（武村忠雄氏＝インフレーション對策第）
○乘合自動車（一二卷六號）
○東大陸（七月號）
（加藤三郎氏＝戰時統制と自治統制の質的轉換）

## 夏季漫吟

初　聲

初夏や仔犬育ちて皆白く
雲去來して海晴れぬ初夏の富士
初夏や鑛し忘れたる雨の窓
卸したる松や毛蟲の陽に光る
栗蟲の毛に波うたす日南かな
毛蟲皆蛹となりぬ雨つゞき
藪の中に住み古る年よ今年竹
濡れ緣をもたげて伸びぬ今年竹
若竹や流れ隔てゝ隣り窓
白波の飛ぶ海近し夏霞

巴　藤

初夏や灯ともるホテル窓の總て
土手なりに田舟列びて行々子
青鷺や湖邊古松の雨あがり
旭高々と植付けの田廣々と
藪蔭を飴屋の日傘校門に
旅なれぬ旅籠に淋し水鷄啼く
合歡の花雨にほろ〳〵鳩の啼く
紫陽花の隣は豪華屋敷哉
山雨はれて湯女と對座や夏の月
夕立や古りに古りたる祖神堂
早乙女の笠脫ぎて笑ひけり